

いじめ防止・早期発見に向けた取組

いじめ防止や早期発見に向けた各学級での日々の取組を集めてみました。たくさんのお取組がありましたが、大きく6つにまとめられました。簡単にご紹介します。

○SST（ソーシャルスキルトレーニング）、アサーショントレーニング、構成的エンカウンターなどの教育技術を取り入れている

コロナ禍の影響もあり、子どもたちは人とのかかわり方を実体験として学ぶ経験が不足しているように思います。例えばSSTは、具体的な仮想の場面「さわいでいる子がいるよ。どんな言葉をかける？」「どうやって仲間に入る？」などを基に、言葉や気持ちなどを考えながらよりよいかかわり方を学んでいきます。アサーショントレーニング、構成的エンカウンターも人間関係づくりに役立つものです。主に友達とのかかわり方について積極的に学ぶ機会をつくっています。



○一緒に遊ぶ、子どもと会話をたくさんする、等の教師と子どもの関係づくりから理解を深める

授業だけではなく、様々な場面でのかかわりから子ども理解を深めたり、その子のよさを認めたりする機会をもっています。

○道徳や学級活動の時間を大切にしている

そのときの子どもたちの様子や課題に合った内容を取り入れ、みんなで考える・話し合う機会を大切にしています。ここにSST等の活動を取り入れることもあります。

○気になったことには即対応

子どものことでちょっと気になったことや心配なことがあったら、すぐに声をかけたりまわりの様子を観察したりして、子どもたちの実態の把握に努めています。

○グループやペアでの学習、学級全体での活動や遊び、などを積極的に取り入れ、かかわりを増やす

様々な場面で、友達とのかかわりを増やし、協力できる人間関係づくりを目指しています。

○教師の思いを語る

「いつでも誰とでも協力していくことが人生を豊にしていくことと語り続けている」という思いを伝える実践であったり、時には教師の経験談や失敗談を伝えるような語りであったり、子どもの目線に立った未来へ向かっての言葉も大切にしています。

どうしたらいい？

もし、自動車や自転車との接触事故に遭ったら

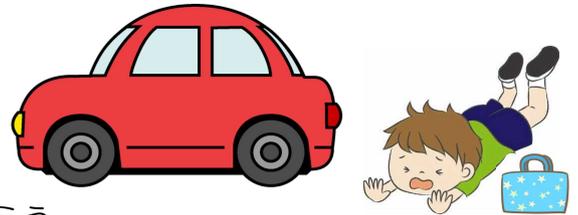
これから暗くなる時間が早くなり、登下校や放課後、休日に自動車や自転車にぶつかってしまう事故が起こってしまうかもしれません。大きなけがなどがあった場合は、自動車や自転車を運転していた人が119番や110番に連絡してくれると思います。

では、特にけがもなく痛みもないような場合はどうしたらよいのでしょうか。次の場合はどうでしょう？

習い事からの帰りに、せまい道の右側を歩いていたら、前から来たくるまのドアミラーが左腕に当たり、バランスをくずして転んでしまいました。

運転していたお兄さんは、くるまをすぐ止めて、「大丈夫？」と声をかけてくれました。

さて、あなただったらどうしますか？いちばん正しいものは次の①～⑤のうちどれでしょうか。



- ① すぐにお兄さんのくるまで病院に連れて行ってもらう。
- ② 痛いところはないので、「大丈夫です」「ありがとうございます」と言ってお兄さんと別れる。
- ③ お兄さんが悪い人かもしれないので、すぐにその場から逃げる。
- ④ 痛いところはないけど、「家に電話してください」とお兄さんに伝える。
- ⑤ 大丈夫なのでそのまま帰り、次の日、学校で先生に伝える。

接触事故に遭って、そのときは痛みを感じなくても、後で痛みや腫れが出てくる場合がありますので、大丈夫とすぐに判断をせずに、自動車や自転車の運転手さんに

「家に電話してください。」もしくは、「学校に電話してください。」

と言うように指導しています。上の場面では④が正しいですね。

保護者の方には、現場に駆けつけていただき、運転手の方とお子様からけがの状態や事故状況を確認し、警察へ連絡するなどの対応をお願いします。学校にもすぐに連絡をお願いします。

運転手の方から学校に連絡が来た場合は、保護者と連絡を取り警察への連絡をお願いすることがあります。

もし自動車や自転車が気付かないで（または故意に）走り去ってしまった場合は、自動車や自転車の色や運転手の特徴、ナンバーなどを見ておくように話しています。

ご家庭でも話題にしておいてください。

◇10月20日（金）のスクールカウンセラー相談は、まだ空き時間があります。ご希望がありましたらお知らせください。